

「肝内胆管癌術後の予後因子・再発危険因子・再発後予後因子の検討」

○ 研究の目的

肝内胆管癌は予後が悪い病気であり、癌を完全に切除しても再発することが多いといわれています。肝内胆管癌患者は数が少なく、予後因子・再発危険因子また、再発後の治療や予後因子に関する研究は少ないのが現状です。広島臨床腫瘍外科研究グループ（HiSCO）データベース（許可番号：第E-26号 研究課題名：広島臨床腫瘍外科研究グループ（Hiroshima Surgical study group of Clinical Oncology: HiSCO）による肝癌共通データベース事業）を用いた解析は、臨床的意義が高く今後の治療方針に役立つと考えています。

○ 研究対象者

2005年1月1日から2015年12月31日までに、HiSCO関連病院にて肝内胆管癌の外科治療を受けられた患者さんで、広島臨床腫瘍外科研究グループ（Hiroshima Surgical study group of Clinical Oncology: HiSCO）による肝癌共通データベース事業に登録された方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は身長、体重、性別、血液検査、病理所見等です。

（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 試料・情報の管理責任者

医歯薬保健学研究科消化器・移植外科学 教授 大段 秀樹

○ 研究期間 平成29年6月2日（承認日）～ 平成35年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5222

広島大学病院消化器移植外科 教授 大段 秀樹（研究責任者）

助教 大平 真裕（担当者）